

# 地域発／現場検証シリーズ

## SDGs

### 「ファミリーハウス先駆者」 「パンダハウス」

福島市

28年前、主婦が動き出す

小児が罹患するがんはさまざまなが、それらを総称して「一般的には小児がん」と言われている。発達過程にある小児の細胞での異常が引き起こす病気だ。1万人に1人の割合で発症するが、現在では治療によって7割から8割は治るといわれている。

小児がんはその子にとって辛いのはもちろんのこと、看病する家族にとっても大変なことである。偶然、知人のそうした大変さを見て、どうしても助けてあげたいという思いを募らせた主婦たちが動き出した。小児がんに対応できる病院は地域では限られ、大きな中核的な病院がその役割を果たしている。そのため、遠く離れた場所から中核病院に入院しなければならぬことも多い。病院の近くで家族が泊まって、より負担のない形で看病ができる施設を提供したい、入院中の子供とその家族に、「第二の家」ファミリーハウス(第一の家)を利用してもらい、たとえ短い時間でも子供は子供らしく自宅にいるような行動をとって、家族もいつも通りの生活を送れるようにしたいと動き出したのである。

海外では企業が提供するファミリーハウスがあることを知り、自分たちで、そうしたハウスを提供しようと考え、日本で初めての試みに挑戦した。発起人の

中にも罹患した子供を持つ人がいて、その子と同じ時期に入院していた他の子供たちを入院中に癒したパンダのぬいぐるみを玄関に置き、開設したのがパンダハウスであった。1994年1月、志を同じくした主婦たちが、施設建設に向けた活動を開始した。

志はあっても、ノウハウはない。ましてや、資金もなくゼロからの出発であった。翌年7月からは、活動の母体となる任意団体を、すろぎの家(パンダハウス)つ

志はあっても、ノウハウはない。ましてや、資金もなくゼロからの出発であった。翌年7月からは、活動の母体となる任意団体を、すろぎの家(パンダハウス)つ

## 病院との距離感大切に

### 病と闘う子と家族サポート

山本佳子理事長



山本佳子理事長

実ったのは3年後の1997年3月で、資金にめどがついてパンダハウス建設に着手できた。これを機に、任意団体を「パンダハウスを育てる会」に改名した。パンダハウスづくりから、それを運営していくことに支援の重きを移していき、この表明でもあった。

建設でも多くのボランティアの力を借り、10月には開設にこぎ着けた。パンダハウスは、中核病院として小児がん患者を受け入れて

です。病院に近すぎれば、看病の延長線といった感じが付きまとい、家に帰ったという気分になれない。かといって離れすぎれば、移動に負担がかりすぎるからです。(山本佳子「パンダハウスを育てる会」理事長)

くりを進める会を発足させた。建設に必要な資金は500万円。これをバザー、街頭募金、企業への寄付のお願いなど、考え

る備品は用意する、また家族が家に帰ってきたようにくつろげる場にするために、お帰りの声や声をかけるもの、依頼がない限り、こちらからは声をかけない、ボランティアによる清掃を除いて部屋には入らない、などのルールを皆で話し合いながら決めていった。我々は黒子に徹する(山本理事長)という基本原則を決めた。

パンダハウスの利用者は福島医大病院に入院する患者である。幸いなことに、この施設の建設を聞いた病院側から協力の申し出があった。患者の病状なども考

慮しつつ、利用者の受付業務と部屋の鍵の管理を引き受けてくれ、病院との良好な協力関係に基づく運営が開始された。

ハートの建設と同時に、その運営というソフトを確立することも急務となった。できるだけ経済的な負担をかけることを目指して、利用料を1家族1泊1000円、日帰り500円に抑えることにした。第二の我が家であることから、家族が当たり前の日常を過ごせ

てくれるなど、売上金の一部は運営に充てることできた。しかも支援の輪が広がる、会員募集にも、パンダハウスの活動を発信することにもつながった。

現在、2007年の増築、翌年の改築を経て、棟建となり洋室3室、和室1室、洋室2室、3室、和室1室、さらには利用者の交流の場としても活用できる多目的ホールほかの共有できる施設も提供できるように

今年で25周年を迎えるパンダハウス。ファミリーハウスの先駆者として培ってきたノウハウは貴重である。運営を通して得られた利用者からの声に基づく切実なニーズは、ハウスの役割の進化にもつながっている。向上した治療率によって健康を取り戻したものの、退院後さらには成長後の生活に不安をもつこともある。こうした不安に対して相談室も設けた。しかも、わざわざハウスに来るのでなく、病院に常駐するこ

とで相談しやすいに配慮している、病院との連携で対応力を向上させている。また、場合によっては、そうした子供を受け入れる自治体にも働きかけている。入院するまでには至らなくても、医療的ケアを必要とする子供もいる。子供、またその家族が孤立することのないように、保健師などと連携して、心置きなく遊んでいけるハウスとしての役割も担っている。また、同じ悩みを抱える家族が交流できる場としても機能している。こうしたノウハウは、全国的なファミリーハウスの横のつながりを通して、さらに強化、蓄積されるようになってきているとい

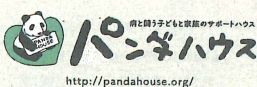
クラウドファンディング活用 コロナ禍で受け入れ態勢を縮小せざるを得ず、また活動に関しての情報発信も難しくなったが、コロナ後に備えて動き出した。闘病中の子供たちが作成した作品を集め、ホームページ上でバーチャル展覧会を開催するために、東邦銀行のクラウドファンディングを活用した地域活性化事業の協力を得ることになった。今年4月に募集額に達した。このプロジェクトでは福島交通も社内広告や最寄りのバス停留所名を「パンダハウス」と変更するなど、広報支援で協力した。パンダハウスは情報発信力を強化して、支援の輪の拡大に歩み出している。

とで相談しやすいに配慮している、病院との連携で対応力を向上させている。また、場合によっては、そうした子供を受け入れる自治体にも働きかけている。入院するまでには至らなくても、医療的ケアを必要とする子供もいる。子供、またその家族が孤立することのないように、保健師などと連携して、心置きなく遊んでいけるハウスとしての役割も担っている。また、同じ悩みを抱える家族が交流できる場としても機能している。こうしたノウハウは、全国的なファミリーハウスの横のつながりを通して、さらに強化、蓄積されるようになってきているとい

病と闘う子どもと家族をサポートする  
ファミリーハウス  
それがパンダハウス



# PANDAHOUSE



認定特定非営利活動法人(NPO)  
パンダハウスを育てる会  
〒960-8157 福島県福島市蓮葉町8丁目15番地1  
TEL.024-548-3711  
E-mail office@pandahouse.org

あなたのまちにも、  
病気をもちながら暮らす子どもたちがいます。  
私たちの活動に参加しませんか。

私たちの活動は会員様からの寄附金によって支えられています。

- 賛助会員 ☆ 企業・団体 年会費 1口 10,000円 ☆ 個人 年会費 1口 3,000円
- 寄附金 金額の設定は自由です。

当会は認定NPO法人です。一定限度内で寄付額に応じた税制優遇措置が受けられます。

年会費・寄附金振込先  
郵便為替口座 (口座記号番号) 02200-9-110330  
(加入者名) 認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会  
※他金融機関から、郵便為替の場合 店名:二二九(二ニキュウ)店 当座預金 0110330